

4 青年期

(1)若者の自立支援・・・ひきこもり・ニート・不登校や様々な課題を抱える若者が、就労・就学等の社会参加ができるよう、自立に向けた支援を行います。

事業No.	事業	内容	行動目標	平成27年度取組と実績	平成27年度取組と実績の評価(効果及び課題)	今後の改善項目	担当課
1401	子ども・若者を対象とした相談窓口	課題を持つ青少年に対して、諸問題を解決するため、必要に応じて適切な関係機関と連携できるよう相談窓口を充実します。	質的充実	茨木市子ども・若者支援地域協議会の各構成機関が子ども・若者支援の相談窓口であるという共通認識を持って対応した。	【行政】機関連携をいかに円滑に行っていくかが課題である。 【市民】どこに相談すればいいのかがわかりにくい。	引き続き各機関が子ども・若者支援の相談窓口として対応するとともに、若者や保護者が相談しやすい窓口について検討する。	子ども政策課
1401	子ども・若者を対象とした相談窓口	課題を持つ青少年に対して、諸問題を解決するため、必要に応じて適切な関係機関と連携できるよう相談窓口を充実します。	継続	青少年に関する相談窓口として対応した。 相談件数 1件	【行政】相談に対し、丁寧な対応に努めた。	引き続き実施する。	青少年課
1402	子ども・若者自立支援センターにおける相談・支援	ひきこもり等の状態にある子ども・若者が社会参加できるよう、「子ども・若者自立支援センター」において、ひきこもり等の当事者や家族の相談・支援を行います。また、低所得世帯に対し、相談料等の助成を行います。	継続	茨木市子ども・若者自立支援センターにおいて、ひきこもり等の当事者や家族の相談・支援を行った。 面談 親411件、本人381件 居場所 381件 同行支援 80件 電話相談 175件 低所得世帯には利用料助成の利用券を交付した。 利用券交付 32人	【行政】支援件数は前年度と比較し6件増加したが、概ね横ばいである。若者の社会的自立へ向けたスモールステップの改善を図ることができた。子ども・若者支援地域協議会の指定支援機関として支援機関間のコーディネートを行っていく役目も担うことになり、今後役割が多岐にわたることが課題である。	子ども・若者の社会的自立に向けた個別支援と子ども・若者支援ケースに携わる関係機関をコーディネートしていく力を兼ね備えた子ども・若者自立支援センターをめざして引き続き実施する。	子ども政策課
1403	子ども・若者の自立に関するネットワークの推進	子ども・若者支援地域協議会に参画する様々な支援機関・団体の専門性を活かし、社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども・若者の状況に応じた支援を行います。	質的充実	茨木市子ども・若者支援地域協議会を設置し、構成機関の代表者・実務者との調整・連携を図った。 代表者会議 2回、実務者会議 6回、ケース検討会議4回(デモケース検討1回含む)	【行政】各構成機関の支援内容や他市での子ども・若者自立支援の取組について情報を共有できた。今後の協議会の方向性として、広報活動の強化、地域との連携、若者の活躍の場の創出、中学校卒業後のフォロー体制の整備を導き出すことができた。	導き出した方向性の実現に向けて取り組んでいく。	子ども政策課
1404	就職サポート	就職相談、講習会・セミナーの実施や職業訓練校等への誘導、合同就職面接会の開催など就職に向けた支援を行います。	量的・質的充実	就職困難者等を対象に相談、講座、面接会等を実施した。 相談件数 延べ290件(就職者22人) フォーキフト講習 受講者3人 障害者向けビジネスマナー講座 受講者8人 パソコン・ビジネスマナー講座 受講者8人 面接対策セミナー 参加者10人 就職支援セミナー 参加者24人 再就職支援セミナー 参加者27人 就労支援フェア(1回目) 参加者73人(就職者2人) 就労支援フェア(2回目) 参加者113人(就職者12人) 障害者就労支援フェア 参加者81人(就職者9人) 三市一町合同就職フェア 参加者75人(就職者11人) 大学等新規学卒者向け就職面接会 参加者61人(就職者2人) 子育て世代向け就労支援フェア 参加者15人(就職者2人) 企業見学会・説明会 参加者84人 再就職支援助成金 交付件数35件(就職者20人) 就労体験 参加者8人	【行政】大学等新規学卒者向け就職面接会、子育て世代向け就労支援フェア及び就労体験を新たに実施した。前年度と比較し、就労支援フェア総参加者数は34人増加したものの、総就職者数は1人減少した。また就職サポート事業全体の就職者数も、15人減少した。 【市民】合同就職面接会について「満足」と答えた方 59%	就職相談、講習会・セミナー及び就労体験の実施、合同就職面接会の開催など就職に向けた支援に取り組むとともに、事業の周知方法を検討し、参加者の増加を図る。	商工労働課
1405	大学等への修学意欲のある若者への支援	進学や修学に支障をきたすことがなく、一人ひとりのゆめが実現するよう支援を行います。	新規	大学奨学金利子補給事業を開始した。 平成26年10月1日から平成27年9月30日までに返済した奨学金の利子額(上限20,000円)を給付した。給付対象となった人には10年間給付する。(ただし毎年申請が必要) 市民税非課税者 25人 市民税課税者 120人	【行政】若者の経済的負担の軽減と、定住促進を図ることができた。事業周知のチラシを多方面に配布してみたが、申請者の86%は広報誌で本事業を知ったことがアンケートでわかった。他市の若者への周知方法が課題である。 【市民】給付対象者の定住意向率は93%。広く事業周知を、手続きの簡略化を、給付期間短縮や給付額減額となったとしても全応募者に給付できるような方策を、との意見があった。	事業の効果的な周知方法について検討するとともに、手続方法については、アンケートの意見を参考に改善しながら、引き続き実施する。	子ども政策課

(2)青少年の健全育成・・・学校・地域・家庭が連携し、次代を担う青少年が自他共にかけがえのない存在であることを認識するとともに、社会の一員であることを自覚し、自ら進んで社会参加するための環境づくりを推進します。

事業No.	事業	内容	行動目標	平成27年度の取組と実績	平成27年度の取組と実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善項目	担当課
1406★	姉妹・友好都市との青少年交流	キャンプやスポーツ等により、姉妹・友好都市と様々な交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神・国際感覚の養成を図ります。	継続	文化振興課が事務局を務める茨木市国際親善都市協会の運営で、下記のとおり、文化交流に関する事業を行った。 ・一般社団法人茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業(青少年の文化・スポーツ交流を推進するために設置された基金から、姉妹・友好都市等との交流事業に参加する青少年に、費用の一部を助成) 助成件数 12件、助成額 1,222,845円 ・各姉妹都市の幼稚園・小・中学生の絵画・書の交換参加者数 95人	【行政】前年度と比較し、一般社団法人茨木カンツリー倶楽部青少年国際交流助成事業については助成件数は2件減少したが、助成額は142,809円増加し、交流活動の推進に寄与した。 絵画・書の交換事業応募作品数は17作品増加し、交流が盛んになってきている。	学校等との連携体制も整ってきており、交流活動の地盤が出来ているため、今後も認知度向上に努め、引き続き事業を継続する。	文化振興課
1406★	姉妹・友好都市との青少年交流	キャンプやスポーツ等により、姉妹・友好都市と様々な交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神・国際感覚の養成を図ります。	継続	小豆島町への訪問と小豆島町からの受入を行い、交流の機会を設けた。 しょうしまオリーブキャンプ 40人 いばらきフレンドリーキャンプ 202人 中学生リーダーキャンプ 49人	【行政】毎年ほぼ一定の参加があり、茨木市・小豆島町それぞれの参加者が有意義な交流を行うことができている。 【市民】全体として、姉妹都市間で新しい友達ができたことへの喜びの声が多く、一部の参加者同士では文通など事後の交流にもつながっている。	茨木市、小豆島町ともに無理のない形で継続する。	青少年課
1407★	青少年の国際感覚と英語等の語学力の育成	茨木市国際親善都市協会青少年活動室などにおいて、歌やゲームを通して、楽しみながら英語等を学び、子どもの国際感覚と語学力を養成します。	継続	文化振興課が事務局を務める茨木市国際親善都市協会主催で、下記のとおり、国際交流に関する事業を実施した。 ・英語教室「We are Friends!」(小学4年生から中学生対象) 全8回実施、参加者 計175人 ・中国語教室(小学生対象) 全10回実施、参加者 計62人 ・「英語スピーチ大会」により中高生の英語学習の成果を発表 実施日 平成27年11月8日、発表者数 27人	【行政】「We are Friends!」の合計参加人数は、前年度と比較し10人減少したが、教室参加者のリピート率が高いこと、また教室の内容が年々充実しており、青少年が楽しみながら、英語を学ぶことができていると言える。今後も、周知に力を入れる必要がある。 「英語スピーチ大会」は毎年出場者のレベルが高く、スピーチのスキルを含めた語学力の向上に寄与している。 【市民】32年間続いている英語スピーチ大会という文化行事を今後も続けて欲しいと参加者からの要望が多く寄せられている。	一層活動の幅を広げ、周知するとともに、事業を継続することで更なる語学力向上に寄与する活動をめざす。	文化振興課
1408★	青少年健全育成団体の活動支援	地域における青少年健全育成活動を推進するため、関係団体事業の活動を支援します。	継続	青少年健全育成関係団体を対象に、青少年健全育成事業補助金を助成した。 助成件数 85件、助成額 6,124,977円	【行政】前年度と比較し、助成金額が約20,000円増加し、各団体が事業補助金を効果的に活用しようとする意識が定着しつつある。	引き続き実施する。	青少年課
1409★	青少年を取り巻く環境整備	青少年指導員による有害図書の入立調査、関係機関と連携して行う巡回街頭指導のほか、社会環境浄化活動等により、青少年の健全育成環境の整備を図ります。	継続	青少年指導員等による巡回街頭指導及び各中学校区青少年健全育成運動協議会による、深夜営業店等への社会環境浄化活動関係チラシの配布を行った。 ・巡回街頭指導:8回、参加者:207人	【行政】各取組を実施することで、青少年健全育成環境整備の一助となっている。また、各校区独自の活動も活発に行われている。	引き続き実施するとともに、事業者の協力を得ながら、青少年健全育成についての啓発を推進する。	青少年課
1410★	デートDV防止啓発	恋人間等の暴力(デートDV)の未然防止のため、中学生・高校生等を対象に防止啓発冊子を作成・配布します。また、効果的な啓発となるよう関係機関と連携を図ります。	継続	デートDV予防啓発冊子を市内公立中学校2年生に配付した。また、希望する高校や大学等にも配付した。 中学生 計3,189人 市民グループによるワークショップを、市内中学校で実施した。 実施校数 4校、参加者 767人	【行政】デートDVワークショップを実施する市民グループの活動支援を行い、市内中学校への出前講座を行うことで、中学生への直接的、効果的な啓発を図った。	当該市民グループへの活動支援を引き続き行い、市内中学・高校等への周知に努める。	人権・男女共生課

(3)体験活動の充実・・・人間性豊かな人格の形成をめざし、子どもの生きる力を育む環境づくりを推進するため、大人と子どもが協働し、地域にある様々な資源を生かしたボランティア活動や体験活動、交流活動を充実します。

事業No.	事業	内容	行動目標	平成27年度の実績と実績	平成27年度の実績と実績の評価 (効果及び課題)	今後の改善項目	担当課
1411 ★	青少年の野外活動	野外キャンプなど、子ども同士の連帯感の育成と自然の大切さを感じる心を育むことのできる場を提供するとともに、青少年活動の指導者の育成を行い、子どもの健全育成を支援します。また、学校教育と連携し、より多くの青少年に自然体験ができる機会を増やします。	量的・質的充実	主に青少年を対象とした事業を実施するとともに、小学校自然宿泊体験学習の受入を行った。 ・主催事業:11事業 ・子ども会キャンプの実施:127子ども会 ・小学校自然宿泊体験学習の受入:32校 ・年間利用者数:308団体、11,675人	【行政】主催事業や子ども会キャンプの実施に加え、小学校自然宿泊体験学習で全小学校5年生に体験活動の機会が設けられている。また、開設40周年記念事業として新たな主催キャンプも実施し、より幅広い層の青少年に体験活動の機会を提供できた。  【市民】キャンプに参加して体験活動や仲間作りの魅力を知り、その後も年齢に応じた事業に継続して参加されるケースが多い。	事業内容の充実を図りながら、引き続き実施する。	青少年課
1412 ★	青少年センター行事	子ども達に豊かな体験活動の機会を提供するため、上中条青少年センター主催事業として、上中条青少年センターを中心に市の各施設を活用し、土曜日講座・イベントを実施します。	継続	主に青少年を対象に「子どもセミナー」によるものづくり等の体験や「ふれあいコンサート」での吹奏楽の鑑賞等の機会を設けた。 ・子どもセミナー:41回、602人 ・ふれあいコンサート:2回、485人 ほか合計1,685人	【行政】各事業を実施することで、青少年の豊かな体験活動の機会を提供できた。	引き続き実施する。	青少年課
1413 ★	各種スポーツ・レクリエーション活動	仲間や参加者とのコミュニケーションを図り、スポーツへの愛好心を育てるため、スポーツ・レクリエーションに親しむ機会となる行事等を開催します。	継続	32公民館区において地区おけるスポーツ・レクリエーション大会開催を促進し、地域住民の健康増進と親睦を図った。 参加者数 44,479人(大人・子ども含む)	【行政】参加人数は前年度と比較し、1,249人増加した。雨天等による大会中止を防ぐよう、予備日の設定を体育館にするなど工夫している。	スポーツ・レクリエーション大会の開催や活動の支援を引き続き行っていく。	スポーツ推進課